（仮称）平和資料館　配置イメージ検討案（勝山公園内）

市民団体等へのヒアリング

（仮称）平和資料館のあり方を考える懇話会での議論の参考にするため、以下のとおり、市民団体等へのヒアリングを行う。

１　ヒアリング団体

・北九州市自治会総連合会
・北九州平和資料館をつくる会
・ＷＩＬＬ（西南女学院大学）

２　ヒアリング項目

（１）（仮称）平和資料館の必要性
（２）（仮称）平和資料館のコンセプト、展示内容及び展示方法
（３）（仮称）平和資料館の建設場所
（４）その他（仮称）平和資料館への意見

３　ヒアリングの流れ

（１）これまでの懇話会での議論についての説明（事務局説明）

（配布資料）
・（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所（案）
・第１回～３回の委員の主な意見

（２）ヒアリング（座長進行）

（ヒアリング方法）
個別に団体の意見を聴取するのではなく、団体が同じテーブルに着き、ヒアリング項目について意見を述べる。ヒアリングの進行は座長が行う。

第１回 懇話会配布資料

（仮称）平和資料館のコンセプト・設置場所（案）

本市では戦争の悲惨さや平和の大切さを市民に伝えるため、「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」や「北九州市非核平和都市宣言」の実施、「戦時資料展示コーナー」における戦時下の暮らしを中心とした資料の展示等、様々な取り組みを進めてきた。

戦後７１年が経過し、戦争の記憶の風化が懸念されており、本市に関係する戦争の記憶を後世に伝えることが大きな課題となっている。

そのため、戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなるよう、新たに（仮称）平和資料館を建設するもの。

なお、下記のコンセプト等は懇話会の活発な議論のため、例示している。

１（仮称）平和資料館のコンセプト

○北九州市における戦争の悲惨さを保存・継承する施設

○平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなる施設

２（仮称）平和資料館の主な展示内容

（１）八幡大空襲を始めとする本市の空襲に関する資料

（２）長崎の原爆に関する資料

（３）戦後の復興に向けた市民生活に関する資料

（４）米国国立公文書館から収集した資料

※現在のコーナーに加える主な資料

３（仮称）平和資料館の建設候補地

小倉北区：勝山公園の一角（関連事項・小倉造兵廠、長崎原爆の投下予定地）

他に市議会より八幡東区、門司区「めかり山荘跡地」の意見もでている。

第１回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見
（平成 29 年 1 月 18 日（水）開催）

【平和資料館の必要性等について】

・子どもの頃から８月９日になると父親から「もし小倉に原爆が落ちていたら、お前は生まれていない」と言われて育った。その言葉は私の息子にも語り継いでいる。北九州にこのような施設ができる事は、すごく意味のあることだと思う。

・小倉が原爆投下予定地という事を全く知らなかった。しばらくした後に、長崎ではなく小倉に原爆投下する予定だったことを知り、運命的なものを感じた。戦後 70 年経って平和資料館をつくる事は、戦後の重みを負った精神性の高いものであって欲しいと願っている。

・戦後 70 年近いこの時間は、押しとどめられない本当に大変な時間だと感じている。今、こうした施設をつくろうというのは、本当に最後のチャンスだと思う。ものの考え方は人それぞれ自由ですが、事実は一つでなければいけない。正しい事実を正しく伝える施設をきちんとつくっていただきたい。

・平和という事を後世の人たちにも、皆さん方がはっきりわかって「戦争という事はしてはいけない」ということを今回、北九州市でも（平和資料館の設置を）やろうという事に対して私たちも本当に賛成している。

・建物自体が鎮魂の思いを抱かせるような、他の商業施設とは違った建物であって欲しい。鎮魂の思いを感じさせるような場所と建物であって欲しいと思っている。

【体験を伝えていくことの重要性について】

・父母や祖母から戦争の話は聞いているが、直接体験したことはない。
八幡大空襲の縁元で、近所の方からも戦争の話しを聞くことはたくさんあった。子どもたちに二度とこういう思いをして欲しくない、この思いを引き継いで欲しいと思っている。

・防災に関する授業を長年行なっており、阪神淡路大震災、東日本大震災や熊本地震などを通じ、その地で起こった出来事を記録すること、語り継ぐこと、次世代が学んでいくことの重要性を常日頃感じている。もちろん戦災と震災とは違う面があるが、教訓という部分では共通する所があるのではないかと考えている。

第２回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見
（平成 29 年 2 月 15 日（水）開催）

【平和資料館のコンセプト】

・地域の歴史資料館であることを中心として、地域と戦争との関わりという点を明確にする必要がある。
・平和資料館は全国にある。北九州市と戦争の関わり、空爆、原爆などの中で独自性が大事である。
・若い人は平和が大事と言われても実感が無い。平和資料館が建設されるなら、“北九州市のなぜこの場所に資料館が建てられたのか”“なぜ資料館に行かなければならないのか”を明確にした方がよい。
・学校の平和教育の授業では、広島、長崎、沖縄などが主に取り扱われているので、北九州市の戦争の歴史があまり知られていない。平和資料館ができると、子どもたちに対して、北九州市の戦争の歴史について情報を発信できる。
・北九州市民以外の人にも資料館に来てもらうためにも、“なぜ、北九州市に資料館があるのか”ということを明確にした方がいい。
・長州戦争～第１２師団～小倉造兵廠～原爆の目標地となった歴史を表示すべき。

【平和資料館の展示内容・展示方法】

・展示内容は北九州、すなわち地域特有の内容を中心とするべきで、“ここでしか見られない“という特色ある内容を追求した方がよい。
・展示内容は、事実が全てであるので、淡々と資料を見せる展示方法でよい。
・子どもが当時のことを実感できるように、戦争のことだけでなく、どのようなものを食べていたのかなど生活の内容がわかるものも展示してほしい。
・原爆も大事なことだが、戦後の市民の暮らしや苦労も大事だ。
・子どもに戦争で何人が亡くなったと言っても数字では理解できない。展示にはストーリーが必要である。
・映像や音響など五感を通じて体験できるものがよい。

【建設場所について】

・歴史的必然性が考慮されるべきである。軍都小倉や陸軍造兵廠があった小倉が最もふさわしい。
・原爆の投下予定地は他にもあったが、実際に爆撃機が来て、投下しなかったのは北九州だけである。
・市内だけでなく市外の人にも来てもらえるように、交通の結節点である場所に位置することが望ましい。
・勝山公園が陸軍の造兵廠であったことを知らずに遊んだり、ジョギングしたりしている人がたくさんいる。勝山公園に資料館があれば、「昔は軍の施設があったが、今は平和の象徴となっている」ということを知らせることができる。
・資料館は中央図書館横の勝山公園駐車場付近が良い。
・近隣に大型バスなどが駐車できる場所がよい。

第３回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見
（平成 29 年 3 月 24 日（金）開催）

【平和資料館の展示内容・展示方法】

（資料の考証）

・これから作ろうとする施設で一番問題になるのは、戦争を知らない人が知らない戦争を知らない人に伝える施設になる。聞いた話を知ったかぶりして伝える姿勢ではいけない。そのため、資料に対する向き合い方が大切であり、きちんと考証して、事実を伝えることが大事だ。

・展示はコンセプトをしっかり守っていかなければならない。資料を考証し、ストーリーにまとめていく必要がある。

・米国公文書館の調査は資料の検証は難しく、長期にわたって学芸員が必要。

（資料の収集）

・戦後７０年以上が経過し、資料の収集は難しくなっている。広報を行い、市民から寄贈してもらう。また、外国の公文書館での資料収集を平行して行う等、地道な取り組みが必要である。

・今後、個人の日記や手記等も収集できると思う。しかし、当時のことを思い出して今、書かれた絵等、資料をどこまで集めるかは十分に検討が必要

（展示資料）

・出征兵士や軍馬を送った写真が無いかと思う。門司港だけでなく、各駅から出征は行われた。そのような資料も展示して欲しい。

・小倉に資料館を作るには、“なぜ、小倉か”というオリジナルのものが必要。もし、原爆が落ちていたらというシュミレーションや爆撃機の飛行経路のパネルもいいと思うが、原爆投下目標が小倉だったという資料を見たこと無い。そのような資料がもしあれば、展示して欲しい。

・体当たり勇士のような“まちの戦争の歴史”は北九州市ならではと思う。各区にもこのような歴史はあると思うので、展示に加えてもいいのではないか。

（展示方法）

・実物をただ置いているのではなく、写真等で当時の様子等を紹介し、来館者が考えるきっかけとなるような展示が必要。何も知らない世代からすると、当時の様子を知ることで自分のことのように受けいれやすくなる。

・分かりやすい展示のためには解説が必要。年配の人は資料を見ただけで、それが何か分かるが、若い人には解説が必要。

・プロジェクションマッピングは分かりやすいが、アミューズメント施設ではないので、演出が過多にならないようにする必要がある。

・プロジェクションマッピングもいいが、実際に手にとって触れる、体験することによって深く記憶に残るようなものも必要。

【建設場所について】

・戦争は悲惨であり、平和を維持していくことが大事である。このことを伝えるためにも、遺族会としても資料館はぜひ作って欲しいと考えている。
・建設場所については遺族会の中でも話し合ったが、門司、八幡の役員も小倉に設置することが望ましいとの意見であった。
・資料館は鎮魂の想いが感じられる施設であって欲しい。勝山公園内の候補地２ヶ所を見たが、中央図書館横のジョギングコースのところは少し賑やか過ぎる。また、ジョギングコースとして定着しているところを塞いでまで作ることはまではしなくてもいいのではないか。雑木林のところは木々に囲まれて静かな場所が相応しい。
・展示物も大事だが、施設の周りや外観も大事。勝山公園の雑木林のところは建物が無い。鎮魂の想いを抱かせるものは雑木林のところだったらできる。
・埋蔵文化財センターの活用については、埋蔵文化財センターは駐車場が無く、また、駅から遠い。資料館が北九州市にある意味を考えると、原爆投下予定地であった勝山公園内の雑木林での建設が望ましい。

【施設の機能について】

・資料館の機能として、展示機能、資料を考証するための研究機能が必要。また、戦争を知る世代と知らない世代との交流、長崎との交流等、交流機能も必要。